

# 平成25年度特別企画展 「蘭花譜展」について

泉川康博・山本昌生

## はじめに

ヒロシマフラワーカレッジを主宰されている谷川圭子氏から、『蘭花譜』を植物公園に寄附したいとの申し出を、前園長の石田源次郎氏を通じて受けたのは平成24年12月であった。谷川氏は、昭和55年頃に植物公園の初代園長である唐澤耕司博士の紹介で『蘭花譜』を購入した経緯があり、ランの植物園として認められている当園にふさわしい図譜であるため、その資料性や美術性を活かし、展示に活用するなど、ラン栽培の普及等に役立ててほしいとのことであった。これを受けて平成25年3月に、正式に『蘭花譜』を受領し、平成25年度の特別企画展にて展示することとなった。

## 『蘭花譜』とは

『蘭花譜』は、竹鶴政孝とともにニッカウキスキーを創業したことで知られる関西の有力実業家、加賀正太郎が、昭和21年に自費出版したランをモチーフにした計104枚からなる植物図譜である。このうち83点（84点との説もあり）は浮世絵の技法を受け継ぐ木版画によって製作されており、原画は一枚を除き池田瑞月、彫師は大倉半兵衛、摺師は大岩雅泉堂によるものである。寄附を受けた蘭花譜は、発刊された300セットのうちの一つで、外箱付きで104点の作品が全て揃い、保管状態も良いものであった。

## 取材活動

平成25年5月に千葉県松戸市で筑波実験植物園の遊川知久博士にお会いした際、遊川博士が『蘭花譜』について様々な調査を行っていることを偶然お聞きし、詳しい方を複数紹介していただいた。また、このような経緯から、後に遊川博士に講演依頼することとなった。

6月には、京都方面に取材のため出張した。最初に向かったのは京都市左京区の京都府立植物園で、同園で平成8年に蘭花譜の展示を行っていたことから、当時の資料を借用した。次に、京都市中京区の日本唯一の木版和装本出版社である芸艸堂（うんそうどう）を訪ねた。蘭花譜刊行

後、長らく行方不明とされていた版木のうち12点が、平成になってから偶然同社の蔵で発見され、その版木をもとに再摺が行われている。当初、貴重な資料である版木や校正摺りを借用することを検討していたが、版木は湿度や振動などにデリケートで運送や展示に大変な注意と費用を要し、また当園の展示室が適切な空調・防犯性能を有していないことから、借用は断念することとし、代わりに蔵の内部および発見された版木の撮影をさせていただいた（写真1）。次に乙訓郡大山崎町にある大山崎町歴史資料館の福島正則館長を訪ねた。ここでは加賀家から寄託されている蘭花譜補遺の原画を見せていただいた。この補遺の原画は池田瑞月の肉筆画で、当初蘭花譜第二集として版画化する計画があったものの、戦後の混乱と資金難の中で断念されたものである。蘭花譜の原画は失われてしまっているため、現存する池田瑞月の原画として大変貴重なものである。また、資料館と同じ建物内の大山崎町商工会にも立ち寄り、商工会が商品化した蘭花譜絵はがきを当園で販売することを快諾いただいた。次にアサヒビール大山崎山荘美術館の芦刈歩学芸員を訪ねた。当館は加賀正太郎の邸宅を改装したもので、ここでは加賀正太郎や園芸技師で実際にラン栽培に携わった後藤兼吉に関する様々な文献のコピーをいただき、また、高見澤こずえ学芸員に建物の案内をしていただいた。

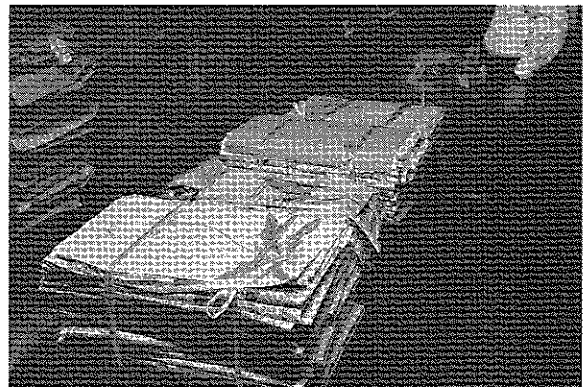


写真1. 芸艸堂の蔵から発見された版木

7月中旬に講演依頼のため山口県柳井市でカトレヤ類の生産に携わっている小田善一郎氏を訪ねた。小田氏は加賀が亡くなった後に東京に戻った後藤兼吉と親交があり、後藤が亡くなった際にはランに関する遺品も受け取っている。後藤兼吉使用の剪定鋏（おそらく大正期の製造で海外製）2丁およびサンダーズリスト（1901年の初版を含む3部）を借り受けし展示した（写真2）。

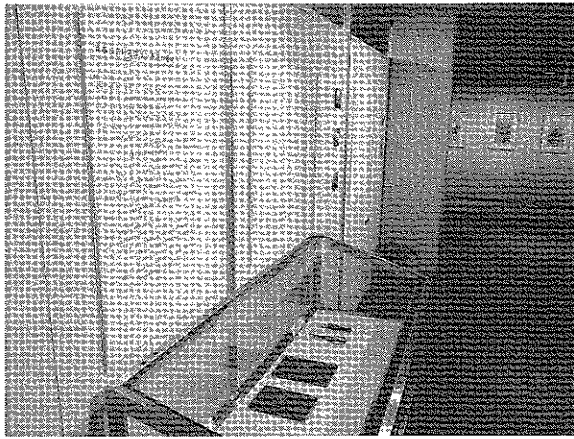


写真2. 後藤兼吉使用の剪定鋏とサンダーズリスト

展示会直前の8月末に再度京都に出張し、大  
山崎町歴史資料館にて蘭花譜補遺の原画8点の  
撮影を行い、芸艸堂にて順序摺り57点の撮影を  
行った。蘭花譜補遺の原画写真はA3サイズに印刷し、また順序摺りの写真は動画の作成に活用した（動画上映の項で詳細説明）。

### オープニングセレモニー

9月14日（土）10時より、展示資料館1F展示  
室前のロビーにてオープニングセレモニーを開  
催した。広島市みどり生きもの協会からは、理  
事長・荒本徹哉氏（広島市副市長）、理事、評  
議員、外部からは洋ラン関係者、ヒロシマフラ  
ワーカレッジ関係者、計20人を招いた。理事長よ  
り寄贈者の谷川圭子氏に感謝状を贈呈した（写  
真3）。理事長、谷川氏、園長によるテープカッ  
ト後、展示室内にて当園職員による展示解説を  
行った。



写真3. オープニングセレモニー 理事長（左）、谷川圭子氏（中央）、園長（右）によるテープカット

### 展示概要

蘭花譜全104点のうち、木版画作品84点を展  
示することとし、展示スペースを考慮して31点  
ずつ3期（前期：9/14～10/17、中期：10/19～  
11/21、後期：11/23～12/23）に分けて展示した  
（写真4、5）。開花中のランの実物があるものにつ  
いては、その版画作品の展示を優先した。ま  
た、充実した解説パネル33枚を用意した。

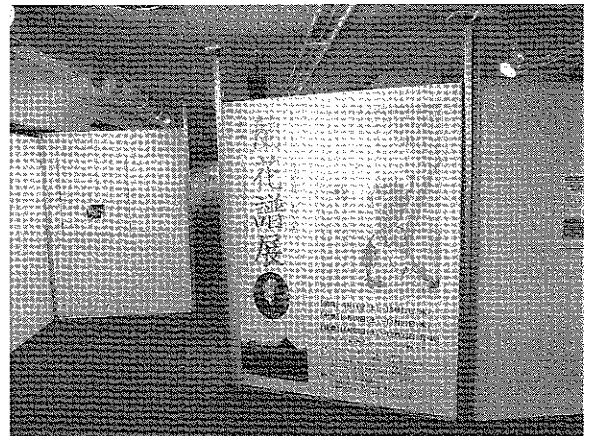


写真4. 展示室入り口

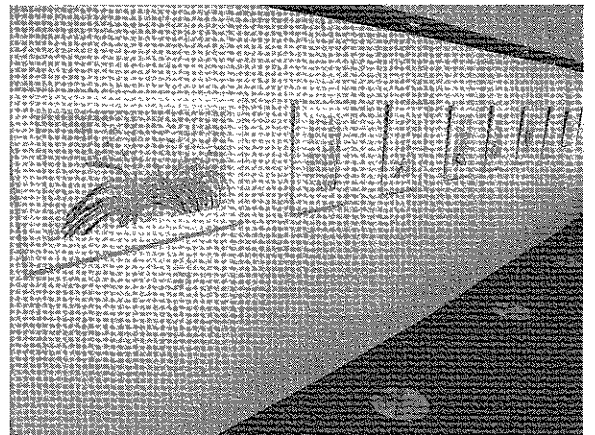


写真5. 作品を額装し、解説を下部に付けて展示

### 動画上映

シプリベディウム‘キング・アルバート’の再  
摺過程で製作された順序摺り57点については、当  
初芸艸堂より実物の借り受けを検討していたが、  
全てを展示するスペースが無く、展示効果を考  
慮して、骨摺り（黒一色の線画）から色版を摺  
り重ね、完成に至るまでの57コマを解説付きで  
およそ4分にまとめた動画を作成し、デジタルフ  
ォトフレームで上映した（写真6）。

また、蘭花譜全104点を約20分でご覧いただ  
ける動画も作成し、液晶テレビモニターで上映  
した。

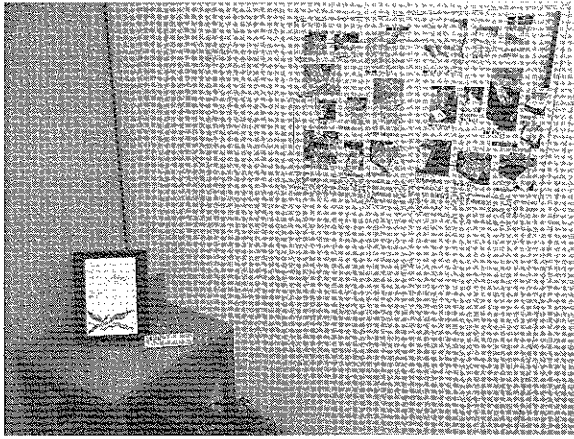


写真6. 順序摺りの動画上映

## 人気投票

人気投票を実施することにより、作品をじっくり見てもらうことを期待して行った。また投票用紙は、展示会の開催を知った情報媒体や展示の感想について伺うアンケートも兼ねた。投票総数は366人であった(表)。抽選で各期につき10名(合計30名)に植物公園オリジナルカレンダーを郵送した。

表 蘭花譜展人気投票兼アンケート結果

① 最も好きな『蘭花譜』の作品番号を一つだけ記入してください。

前期 (9/14~10/17)、投票者数174名		
1位	No.1	バンダ・サンテリアナ 14票
2位	No.43	カトレヤ・クロン 'オオヤマザキ' 13票
3位	No.7	シンピディウム No.354 11票
中期 (10/19~11/21)、投票者数117名		
1位	No.1	バンダ・サンテリアナ 18票
2位	No.58	ブラッソカトレヤ・プリュージュ 15票
3位	No.45	ジゴペタルム・マクシラレ ガウティエリ 11票
後期 (11/23~12/23)、投票者数75名		
1位	No.83	ホルコグロッサム・キンバリアヌム 12票
2位	No.80	シンピディウム No.351 11票
3位	No.42	パフィオペディルムモーディアエ 6票

②『蘭花譜展』を何でお知りになりましたか？

通期 (9/14~12/23)、有効回答数349名		
チラシ	50名	14.3%
ホームページ	20名	5.7%
園内掲示	204名	58.5%
その他	75名	21.5%

③ 展示をご覧になった感想をお聞かせください。

通期 (9/14~12/23)、有効回答数350名		
良かった	326名	93.1%
普通	23名	6.6%
悪かった	1名	0.3%

## 講演会・講習会

10月27日(日)に、小田善一郎氏を講師に迎え「加賀家の蘭栽培を支えた後藤兼吉について」と題する講演会を行った(写真7)。小田氏が用意した大山崎山荘や後藤の貴重な写真の数々が

公開された。特に洋ランの神様と呼ばれた後藤の栽培法については、多くの時間を割いて説明がなされた。参加者は29人で、アサヒビール大山崎山荘美術館の川井遊木学芸員や、もとNHKディレクターで蘭花譜に造詣の深い大塚融氏も聴講に訪れた。



写真7. 後藤兼吉が作出したパフィオペディルム 'ユメドノ' を手に解説する小田善一郎氏

11月2日(土)に、遊川知久博士を講師に迎え「蘭花譜をめぐる」と題する講演会を行った(写真8)。海外の植物図譜と比較した『蘭花譜』の特徴や、加賀とともに戦前の関西の蘭界で活躍したF.M.ジョネスの話題、加賀・後藤両氏のラン育種の方向性やラン界の後世に与えた影響など、話題は多岐に渡った。参加者は59人でアサヒビール大山崎山荘美術館の芦刈歩学芸員も聴講に訪れた。



写真8. 蘭花譜について解説する遊川知久博士

11月23日(土・祝)に、広島女学院大学の三椏正典教授を講師に迎え、「花の版画 木版画講習会」と題する講習会を行った(写真9)。事前申し込み制で参加者は27名であった。一版多色摺りという特殊な技法で、版木を線彫りして版木

に絵の具を塗布し、黒い紙に摺ると彫った部分が着色されず黒い線として残る。絵は蘭花譜展の図録を模写し線彫りとすることで、初心者でも容易に時間内に美しい作品に仕上げることが出来た。



写真9. 木版画指導を行う三樹正典教授

#### まとめ

植物公園では初めての本格的な美術展示ということで、作品の退色や汚損の防止に留意しなければならなかった。紫外線量が多く作品の退色が懸念される蛍光灯は消灯し、紫外線量の極めて少ないCCS社製自然光LEDのスポット光を採用した。照度は2m先でおよそ150ルクスとなり、暗すぎずかつ自然な色合いで展示することができた。作品とパネルそれぞれに適切な照明角度と距離にするため、天井にダクトレールを増設した。また、館内空調が自動温湿度調整に対応しておらず、毛髪式湿度計を広島市未来都市創造財団から借り受け、家庭用除湿機および加湿器を必要に応じて稼動することで対処した。また、入園客が不用意に作品に触れないようにしつつも目障りにならないよう、ベルト式パーティ

ションを低位置に設置した。

「蘭花譜展」期間中の入園者数は68,451人（前年度の特別企画展期間中の入園者数は64,317人）で、4,134人増加した。しかし、広報については大きな課題が残った。アンケート調査によると、園内掲示で展示を知った、つまり入園前に展示があることを知らなかったとの回答が58.8%であり、入園者への事前の周知が明らかに不足していた。マスコミの取材は新聞・雑誌が計4件と少なく、とりわけテレビ局には一度も取材いただけなかったことは残念であった。絵師・池田瑞月が全くの無名であること、戦後の混乱期に不本意な形で出版されたことなどにより、一般の方はおろか美術専門家の間でも「蘭花譜」の存在をほとんど知られていなかったことなど、話題作りに欠けていたことが原因と考えられる。しかし、展示が良いとの回答を93.1%もいただき、自由記述欄では、このような素晴らしい版画集があるのを初めて知った、展示会の開催を知っている人が少なく勿体無い、もっと広めてほしいという趣旨の記述も多かった。

平成25年12月には、絵師・池田瑞月の故郷石川県で、没後初となる池田の個展が開催された。平成26年2月には沖縄国際洋蘭博覧会において、沖縄県内初となる「蘭花譜」の展示も予定されている。また、平成26年度秋にはNHKの朝の連続ドラマで竹鶴政孝の妻リタがヒロインの『マッサン』の放送が決定している。加賀は竹鶴とともにニッカウキスキーを設立しており、放送をきっかけに加賀や加賀の発刊した『蘭花譜』に興味を持っていただける可能性がある。放送期間中に一ヶ月程度、再度「蘭花譜」の展示を行う予定である。